

古材利用というと、**古民家**という明治（大正）時代以前の古い建物の太い梁・柱・厚い床板・床の間の柱・床板・障子・襖・ガラス戸・などや古民家の**骨董品**・自在鉤・家具などを購入し住宅などを新築する際にそれらを取り付け時代ものの古びの面白さや骨董品を取り付けたり置いたりしてその味を楽しむことになります。あるいは、リサイクルやリユースとしてビルを解体したコンクリートやレンガ、コンクリーブロックなどから砂や砂利に分別、下水の汚泥から路盤材、レンガにリサイクル、また小学校の子供の机や椅子などの廃品となった物を修理をし塗装をやりなおしてキレイにして使ったりするリユースなどの方法がおこなわれています。



A.

汚泥から建設資材のレンガに

住宅を新築やリフォームをする方法として全ての建材や素材・機器を新しいもので作る方法が一般的ですが、その中に上記のように自宅を解体し新築する場合再利用できそうな部材や部品、骨董品などを解体計画に入れておきます。

そして、その物をどこの場所に取り付けるかを設計の段階で決めておきましょう。但し、こうした既存の家を解体するさい柱や梁などを確保するには、解体屋さんでなく大工さんのおこなうことです。そのためその手間代が掛かります。



B.

事例

- ①或る方は、気に入った大黒柱を見つけたので購入し、新築のさい家の大黒柱にしました。
- ②子供時代の柱の傷の柱は、建物の構造の柱のことがありますので、大工さんに依頼しましょう。

- ③障子・襖は、取外は誰でも出来ますが、工事が完了するまでの保管場所を確保しておく必要があります。
- ④透明波を打ったガラス（古いガラス）、今どきのガラスは、歪みのないガラスが当たり前で、波を打ったガラスが逆に面白いし貴重品です。
- ⑤作り付け家具を取り外し新築の家に使いましょう。新規に造るとなると制作費がかなり掛かります。
- ⑥床柱も買えばそれなりの費用ですし、古い柱ものは多くは無垢材です。古い家を作った人（父とか祖父）の思いもあります。
- ⑦障子・襖も新規につくる結構な費用が掛かります。昔の障子は、模様入りの細かい作りとなっているものがあります。再利用するには、建具の高さが低いのでその点注意しなければなりません。但し、障子や襖の張替えに費用が掛かります。
- ⑧床の間の地板は、厚板の場合がありますので飾り棚などに利用しましょう。
- ⑨瓦は、古いものは土を敷いた上に本瓦を葺いていますのでそのまま屋根瓦として使うには重量があり、あまりかんばしくありません。花壇の縁石代わりや屋根の雨垂れ落ちのところによく使われています。
- ⑩鬼瓦も壊れないように下ろし、もう一度屋根の棟に使うのもよいでしょう。代々、災いをふせいでくれたものですから。
- ⑪梁材は特に建物の空間にメリハリを付け目立ちます。

というように単に新しい建材で家をセオリー通り作るのではなく古材などを取り入れた家作りの方法や古材を使うにあたり古い様式を再認識してそれを取り入れる方法などが考えられます。



C

写真： A  公益社団法人 日本下水道協会 JSWA Japan Sewage Works Association より

B. 古民家 解体の画像より

C. 植木設計